

「聞き書き甲子園」は、
**高校生の聞き書きと名人の推薦に協力する
市町村の公募を開始しました。**

～「地域文化の継承」「次世代育成」「関係人口の創出」に寄与～

「聞き書き甲子園」実行委員会（農林水産省等で構成）は、6月28日より、同甲子園の次年度（2019年度）開催に協力する「市町村」の公募を開始しました。

「聞き書き甲子園」は、全国の高校生が、森・川・海の「名人」を訪ね、その知恵や技（わざ）、生き方を「聞き書き」し、記録・発信する活動です。

次年度（2019年度）、第18回開催を迎えるにあたり、「名人」の「なりわい」や暮らしの基盤である「地域」に、さらにスポットをあてる観点から、高校生が「聞き書き」する「名人」の推薦に協力する「市町村」を公募します。これにより「自然と向き合



う仕事の大切さ」や「地域ごとに特色ある生活文化の豊かさ」をひろめ、次世代を育成するとともに、新たな関係人口の創出に寄与します。

公募期間：2018年6月28日（木）～9月28日（金）

※本公募では、10～12の協力市町村を公募します。「地域団体」（地域自治組織や市民活動団体、事業協同組合等）が市町村を窓口として応募することや、複数の市町村が連名で応募することも可能です。

※選定された市町村には、2018年度2月末までに、5～8名の地域の「名人」を推薦いただきます。

「名人」には、次年度（2019年度）、高校生の「聞き書き」取材にご協力いただきます。

※詳細は、公募開始日に「聞き書き甲子園」や農林水産省等のwebサイトで公表します。

主催：「聞き書き甲子園」実行委員会

（農林水産省／文部科学省／環境省／国土緑化推進機構／NPO法人共存の森ネットワーク）

後援（申請中）：総務省／全国知事会／全国市長会／全国町村会／全国山村振興連盟／全国過疎地域自立促進連盟／NPO法人「日本で最も美しい村」連合ほか

※同事業は（株）ファミリーマートの募金協力・企業寄付と、複数の企業・団体の協力支援により実施しています。

お問い合わせ：〒156-0043 東京都世田谷区松原1-11-26 コスモリヴェール松原 301

「聞き書き甲子園」実行委員会事務局（NPO法人共存の森ネットワーク内）担当：吉野・関

電話 03-6432-6580 ファックス 03-6432-6590 メール mori@kyouzou.org

聞き書き甲子園 

市町村公募から「聞き書き甲子園」の開催まで

本公募により、協力市町村(10～12地域)を選定。協力市町村は、それぞれ複数の「名人」(5～8名)を推薦します。第18回「聞き書き甲子園」(2019年度)は、推薦された「名人」の人数に応じて、参加高校生(70名前後)を全国から募集します。

第18回(2019年度)開催スケジュール

5月～6月
高校生募集



8月11～14日
事前研修会(都内)



9～12月
名人への取材・作品づくり



3月中旬
成果発表会(都内ほか)



参加高校生が東京に集まります。「聞き書き」の手法や取材する地域や名人の仕事について学びます。



高校生が名人を訪問し、一対一で取材し、作品にまとめます。全ての作品は冊子にまとめ、関係者に配布します。



高校生が「聞き書き」を通して学んだことや、取材した地域の魅力を発表し、将来の夢や希望を語ります。

森・川・海の「名人」って、 どんなひと？

林業、水産業、工芸など、地域の自然と関わる仕事をしてきたご高齢の方を想定しています。長年、その仕事に従事し、先人からの知恵や技(わざ)を受け継いできた方々です。

《職種例》

1) 森にかかわる仕事

造林手、炭焼き職人、猟師、山菜採り、原木しいたけ栽培、漆かき職人、わさび栽培、薬草採取、養蜂、鷹匠等

2) 海や川にかかわる仕事

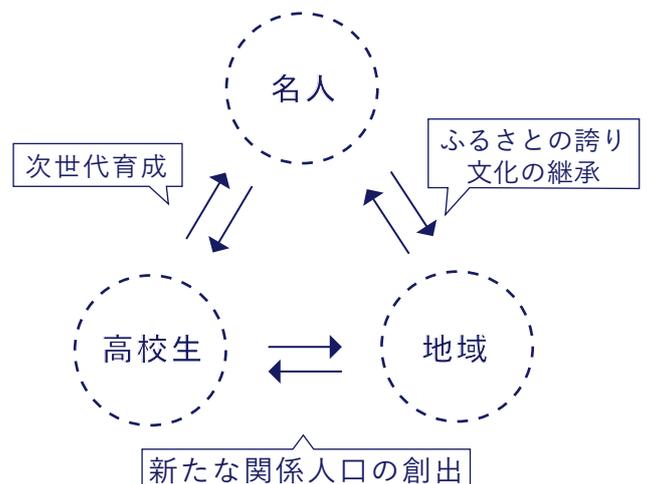
猟師、海女、川猟師、海草採取、牡蠣養殖、船大工、漁具づくり等

3) 伝統的な生活文化の継承にかかわる仕事

宮大工、茅葺き職人、桶・樽づくり、指物師、木地師、塗師、紙漉き、竹細工、草木染め、こけし作り、野鍛冶、伝統農法(焼畑等)、発酵食品の加工(味噌・酒づくり)等

高校生と名人の出会いが、 地域の元気につながります！

高校生は、「聞き書き」を通して「名人」の生きざま(人生)を受け止めます。「森が泣いている」「村が寂しくなった」と語る「名人」の思いに少しでも応えたいと、里山里海の保全や地域活性化などに取り組む、卒業生の活動も生まれました。「聞き書き」は、祖父母の世代から孫の世代へと、生きる知恵や心をつなぐ活動です。





「聞き書き甲子園」とは

「聞き書き甲子園」は、毎年全国 100 人の高校生が、農林水産省の関連団体により選定・表彰される森・川・海の「名人」を「聞き書き」する活動として、2002 年度（平成 14 年度）にスタートしました。次年度（2019 年度）以降は、協力市町村が推薦する複数の「名人」を、高校生が一对一で「聞き書き」する形で実施します。

「聞き書き」とは

「聞き書き」の基本は、一对一のコミュニケーションです。高校生は、「名人」との対話をすべて録音し、そのデータを一言一句、書き起こします。さらに、その書き起こしを整理し、「名人」の言葉だけを使って、その語り口を生かしながら作品にまとめていきます。

その過程で、ある高校生は言いました。

「名人の言いたいことは、いつの間にか、自分の言いたい（伝えたい）ことになってきた」

「名人」との出会いをきっかけに、自分の進路を見つめ直し、新たな一歩を踏み出した卒業生は全国各地で活躍しています。

「聞き書き甲子園」は、E S D（持続可能な開発のための教育）の事例としても高く評価されています。



photo by 奥田高文

卒業生たちの活躍

「聞き書き甲子園」実行委員会の事務局である NPO 法人共存の森ネットワークは、「聞き書き」に参加した卒業生を中心とした活動組織です。

卒業生は、作家の塩野米松氏とともに、毎年、新たに参加する高校生の「研修」をサポートするほか、各地で地域づくりや里山里海保全活動を実践してきました。

たとえば、新潟県村上市高根では、1 期生同士が結婚して U ターンし、空き家活用や棚田の保全活動を「聞き書き」卒業生とともに展開しています。「聞き書き」をきっかけに、林業の現場に飛び込んだ人。「地域おこし協力隊」として活躍する人。ふるさとに U ターンして教員となり、自分の教え子を「聞き書き」に参加させる卒業生もいます。「聞き書き甲子園」への参加は、それぞれの人生にとって大きな転換点になっているのです。

詳細は web サイトをご覧ください。

